

建築文化賞

ユニバーサルデザインに配慮した建築物

社会財としての生産環境

建築主：株式会社産業経済新聞社
設計：株式会社サンケイビルテクノ
設計：鹿島建設株式会社一級建築士事務所
施工：鹿島建設（株）東京建築支店
所在地：浦安市千鳥9番地4

産経新聞印刷千鳥センター



周辺環境に配慮し3つのボリュームに分節した外観

新しいタイプのユニバーサルデザインである。新聞の印刷工場という情報化社会においてなおアナログな部分を引き受けながら、徹底して自動化された空間であった。巨大なロール紙の上に想像を絶する高速度で文字が、図版が、写真が印されていく。そして奔流のごとく新聞が上下左右へと流れて、配送トラックに積まれてゆく。このプロセスを支える勤勉なロボット達は、ひたすら無言でインプットされた作業をこなしていく。

そうした情報生産設備のメカニズムは、いつしか私たちの社会の縮図を見ているような気分させる。だから、働く人々にとっても、社会見学に訪れることもたちにとっても、ここは単なる生産の場ではない。

本施設では、そうした営みの入れ物である建築物の内外から、その存在をグラフィックに情報発信することが戦略的に意図されている。大小のピクトグラムや色彩計画が巧みにデザインされ、上空を飛ぶ飛行機からの目線まで意識したその意図は尋常ではない。その結果、どこにいても海辺の明るく楽しい気持ちと隣り合

せになれる、そんな生産労働環境が実現した。従来のバリアフリーの手法から止揚されたユニバーサルデザインには、機能的要求に対処するだけでなく、社会財としての建築環境が具備すべき「美しさの質」が今問われているのである。ここに優れた一つの答えを見た。

どこにいてもかすかに香るインクの臭いは、ここが印刷工場であることを思い出させる。そして、ロボット化によって根底から変質した仕事の質と量が、これまでの職人的技術をどのように継承し、あるいは発展させていけるのだろうかという問いも頭をよぎるのであった。

(岩村和夫)



4色インクと海をモチーフにしたエントランスホール



袖色・葉色の2色に明るく彩られた生産ライン
(撮影/SS東京・島尾望)